

フェーズⅣ（プロセス改革実施）の事例 4-2

要求定義レビュー

ある売上 2,000 億円超の金属加工メーカーにおいて、新しい営業システムを開発するにあたって、利用部門からのプロジェクトメンバが中心となって、レベル 5 プロセスに位置する業務フローを設計しユーザ要求を定義しました。ところが、要求の完全性に対して不安から要請があり、筆者は要求アナリストとしてこの要求をレビューすることになりました。

筆者は、業務参照モデルをもとに要求チェックおよび利用部門にインタビューすることで、記述されていない暗黙的な機能要求を引き出して追加しました。さらに、記述された要求を汎用的な機能要求に再定義し、非機能要求となる業務ルールを明確にし、プロセスのコントロール(パフォーマンス)から非機能要求品の妥当性を確認する、など当初の要求定義を修正しました。さらに、要求定義書には、要求を評価するための要求発生元や要求理由、要求をテストするためのテストケースや利用者側の受入適合基準も追加しました(図表 6.4)。

この要求定義レビューを 2 カ月間、1 人月で完了しました。要求定義はまずレベル 4 プロセスの設計として行うべきですが、この事例によってレベル 5 要求のレビューにも業務参照モデルが利用できることが分かりました。その後、現在の業務参照モデルには、個々のビジネスプロセスごとに、参考情報として標準 IT システム機能を追加しました。